

佐武流山山行記録



苗場山を見る



木の根を降りる

目的地	佐武流山	期 日	平成18年9月3日(日):前夜現地入り
山行人	笠原正雄・澄子	特 記	予想はしていたが、なかなかハードな山だ。

地名	(着)～(発)	天候	記 事
与板発	2日 pm5:00	曇	長岡IC～川口IC。津南に入る頃より暗くなり始める。
雄川閣	8時過ぎ	〃	秋山郷を過ぎ、R405と切明温泉との三叉路に地図看板があり、佐武流山へ導く立札があった。栃川高原「ヒュッテひだまり」方面に進むとゲートがあるが、半分開いていて、そこにも佐武流山への標示がある。これを確認して、三叉路に戻り切明へと進む。一度雄川閣前を通るも見落とし、橋を渡って暫く林道を進んだ。間違いに気づき戻って宿に入る。
露店風呂	9時頃	〃	10:30まで入浴可とあったが、真っ暗。照明が故障中とのこと。フロントで懐中電灯を借り、中津川のせせらぎを聞きながら熱い湯につかる。
起床	3日 am3:30		サンドイッチを食べ、まだ暗い中車で昨夜確認したゲートへと向かう。
歩き出し	4:55		半開ゲートを過ぎ、更に舗装道を登って行くと今度はしっかり閉鎖されたゲート前が出る。左斜面に「佐武流山への近道」とあり登山ポストがある。路側に1台あって、三条からの車中泊単独者が準備中。少しずつ明るくなって来るなか自転車を下ろし準備する。単独者が歩き出して行く。近道は自転車が利かないため、ゲートをすり抜けて自転車を漕ぐ。その頃岐阜からの男1人女3人隊が車でやって来た。少し先に行くと切明温泉からの道(昨年土砂崩れで通行止め)と合流して、今度は本格的な林道ゲートあり。
沢への下降点	6:05	曇	砂利の林道の殆んどを、自転車を押して進む。それでもわずかに漕ぐ。途中近道方面へと導く和山林道と合流。林道から渡渉点に下る道に道標あり。崩れかけた歩き難い斜面から始まる。杉の倒木をくぐりながら下る。
檜股川渡渉	6:25～6:45	〃	水量は多く無く、飛び石伝いに渡る。ロープが渡してあったが、かえって邪魔になる。渡り終えて食べる。近道を先行した三条男がやって来た。ここまで1時間50分と言う。近道といってもあまり時間短縮できないようだ。先行する。沢から登り上がる登路にオオシラヒゲソウを見る。すぐに針葉樹の気分の良い緩やかな登りとなる。
物思平	7:45～7:55	曇時々晴	やや急登の後、大木の下広場。ワルサ峰迄1時間の標示。のち緩登から始まり、駒ヶ岳檜廊下を思わせる木の根を跨ぐ登りとなる。根と根の間は松の枯葉でフワフワクッションの地面だ。左手に月夜立岩が見えてきた。
カモシカを見る	8:30～8:35	〃	右手に猿面峰のピラミダルなピークが見える。岩場の斜面にカモシカの親子。鳴き声も聞こえる。
ワルサ峰	9:05～9:25	〃	展望の開けたピーク。左後方に苗場の山頂平原が見える。日差しをまともに受けるようになり、日焼け止めクリームを塗る。やせ尾根を進む。
坊主平	10:15～10:20	〃	一度降ろされて笹混じりの道を上る。10分前に西赤沢源頭・苗場への分岐を経て広場に出る。何故かサバ水煮缶が多数捨てられていた。
山頂	11:05～12:15	〃	一番乗りかと思っていたが、15分前に熟年夫婦が下山して来た。4時歩き出して山頂滞在15分と言う。三角点と標柱の頂。白砂山は直進方向と思われるが、道は藪で分からない。展望は180度だが、それも雲で見えない。わずかに上空に青空が覗くのみ。汗でぬれた半袖シャツを脱いで灌木のうえで乾かす。長袖シャツを着る。間もなく岐阜隊が来て名古屋弁で賑や

			かになる。男は百名山を終え、二百名山踏破中と言う。かなり遅れて三条男来る。彼と下痢の話をする。「これが利く」と三光丸を貰った。今日のランチの目玉は丸かじりの完熟トマトだ。岐阜隊が先行下山して行く。
上山者と会う			下り始めると上山単独者と夫婦に会う。この時間だと帰りが遅くなるだろうと余計な心配をする。
ワルサ峰	1:40~2:00	〃	休む。ヤマハハコの群生を見る。長袖から半袖に替える。
物思平	2:55~3:05	〃	かなり急いだのだろう、後から三条男の鈴の音が聞こえて来た。
檜股川渡渉	3:55~4:00	曇	この手前でオオシラヒゲソウを撮影中に三条男に追いつかれた。
林道に上がる	4:20~4:30	〃	自転車を回収して、出だしは押したが大半をブレーキ使用で下る。途中の林道脇で幕営の男女数人隊が輪になって居た、明日の登頂だろうか。林道と山線分岐を近道方面に向かう三条男に菓の札を声掛ける。ブレーキの多用で焼け付くにおいが始まる。そのうち、利きが悪くなって来た。なおかつ浮石で尻が痛くなる。
車に戻る	5:20	〃	切明分岐の本格ゲートの手前で岐阜隊を超越す。三条男はまだ到着していない。自転車の効果がこれで分かる。
のよさの里入浴	6時頃	〃	露店風呂に浸かったが、石鹸が無いので、内湯に移動して入りなおす。日が暮れて、往復とも秋山郷の景色は見る事が出来なかった。携帯電話が通じないため、総合センター「とねんぼ」でカエルコール。
与板着	9:30	〃	途中十日町でてんぷらそばを食べる。

一度廃道となったルートが1998~2000年の3年をかけて切り開かれた。そして、渡渉の前後にわずか杭が打たれている所があるだけで、他には登路に人造物は、木に下げた看板と2箇所ロープ以外は無い。笹が路面を覆う所もあり、整備された登山道とは違う。従って、大半はのんびりと歩くといった道では無く、たえず足元に注意を必要とした。下山も同様で、さほど速度は上がらない。また、「山と高原地図」にこの山のコースタイムは記載されていない。そのコースタイムは幾分余裕を持って設定されているのだが、今回参考にした栄村HPのコースタイムは、ぴっちり、実歩行時間であった。

金曜日に職場の懇親会で冷えたビールを飲んでしまった。それがたまたま土曜日の朝から、強烈な下り腹となってしまう、歩き始めになっても治らなかった。そのせいか、いつもに比べて最後まで足の調子が上がらなかった。

およそ10時間となるコースタイムであったため、早朝スタートとして正解であった。